

(公財) いわて産業振興センター広報誌

産業情報いわて

I n d u s t r y I n f o r m a t i o n I W A T E

VOL.

161

2016年3月号



〔被災企業への復興状況インタビュー〕

震災5年ー未来へ

沿岸4企業 復興への道のりと展望



事業カレンダー

いわて産業振興センターに関連する事業紹介です

3月 [MARCH]

- 2日 新規販路開拓セミナー
岩手県プロフェッショナル人材戦略拠点
開設記念セミナー
- 24日 工程改善研修会 活動報告会

岩手連合学生フォーミュラチームのご紹介 ⑥

「加速器関連産業参入セミナー」開催報告 ⑦

平成27年度下請取引条件調査について ⑦

第45回岩手県の物産と観光展(名古屋丸栄展)開催報告 ⑧

(株)高島屋グループお得意様特別ご招待会～岩手ふるさと販売会～開催報告 ⑧

第45回岩手県の物産と観光展(大いわて展)開催のご案内 ⑧

(株)高島屋 宣伝部の中里治氏への感謝状贈呈について ⑧



ワカメの高速撹拌塩蔵装置「しおまる」の技術の核は、家庭用洗濯機をヒントに考案されたランダムスピン水流。オールステンレス、防水モーター、インバーターなども搭載する。容量は2000リットル。塩漬け・塩抜き・調味漬け・洗浄など用途は多岐にわたる。

地元向けの本醸造から純米酒、大吟醸と酒通も一目おく菱屋酒造の酒。酒造りを取り仕切る南部杜氏の辻村勝俊さんは「化粧をしない酒」を信条に、麹や米など素材の持ち味を壊さない無濾過での酒造りにこだわる。平成27年度の「現代の名工」にも選ばれた。

釜石市
KAMAISHI

石村工業株式会社

代表取締役社長
石村 真一

【いわて産業振興センター活用事例】 設備貸与制度や専門家派遣事業、取引あっせん事業を利用

新たな切り口で自社製品を
提案、販路拡大に邁進

自社製品の開発に注力し、電気を使わない木質燃料ストーブ「クラフトマン」やワカメの高速撹拌塩蔵装置「しおまる」など、数々のヒット商品を世に送り出してきた石村工業株式会社。震災の津波により3つあった工場は全半壊したが、同年5月には加工機械を導入し被災地釜石でいち早く操業を開始した。現在は敷地内に事務棟を新設したほか近隣の物件を取得、第三工場として新たに水産加工機械の製造にも取り組んでいる。

発売時より高い評価を得ていた「クラフトマン」は今や沖

縄を除く全国に販売実績があり、農業ハウス向けの長時間燃焼型薪ストーブ「ゴロン太」も補助金対象で導入する自治体もあるなど好調だ。それを踏まえ、石村真一社長が目指すのが「しおまる」の更なる販路拡大。県水産技術センターと共同開発をした本製品は、500kgのワカメ・コンブが1時間で均質に塩蔵できる。その革新的技術力が評価され文部科学大臣賞も受賞したが、「ワカメのみならず漬け物の塩蔵や浅漬け、塩蔵品の脱塩にも利用ができる」と石村社長。県内の漬け物メーカーを

皮切りに、山形県や新潟県などへもトップセールスをかけている。「売り上げが伸びているのは現代人好みのサラダ感覚の漬け物を作るメーカー。調味液も使用できる『しおまる』はニーズにフィットする」と確信する。

根っからの技術者でありながら「自分で売る意識を持たなければダメだ」と話す石村社長。「クラフトマン」も森林組合と提携し薪の供給事業をスタートさせるなど、顧客ニーズをとらえた戦略を展開する。技術力と販売力という両輪で、フィールドを広げている。

企業データ

会社名 石村工業株式会社
本社 釜石市大平町4丁目2-1
電話 0193-22-3641
代表者 石村 真一

創業 昭和34年(1959)12月
従業員 23名
業種 省力化機械の開発製造、ストーブ製造
URL <http://craftman-pe.com/home/>

宮古市
MIYAKO

株式会社菱屋酒造店

【いわて産業振興センター活用事例】 設備貸与制度などを利用

代表取締役社長
斉藤 鉄郎

江戸時代末期の嘉永5年(1852)に創業した、宮古市の菱屋酒造店。酒蔵のある鉾ヶ崎の湧水と県産米のみを使って仕込まれる銘柄「千両男山」はどっしりとした旨口で、地元では親しみを込めて「ひっさの男山」と呼ばれ愛されてきた。震災では、宮古市内で最も被害の大きかった鉾ヶ崎地区に立地していたため木造2階建ての母屋は全て流出し、仕込み蔵も1階天井まで津波が押し寄せた。しかし4月に50ケース分の酒が発見され、6月には貯蔵タンクの無事も確認。「震災を乗り越えた奇跡の酒」として

販売され、瞬く間に完売した。

鉾ヶ崎地区の復活のシンボルでもある同社。市はもとより被災地応援ファンドからの支援なども受け、再開準備は同年8月末にはスタートした。まずは酒蔵の工事、それと同時に酒造りにも着手。「翌年1月4日の宮古市新年交賀会への出荷が目標だった」と、斉藤鉄郎社長は振り返る。酒造機械の手配から仕込みへと奔走したのは、同社の辻村勝俊杜氏。この道60年、あの青森の銘酒「田酒」を世に送り出した“純米酒の神様”だ。不断の努力で仕込み、出荷した生酒は「ま

さか男山が飲めるとは思わなかった」と交賀会の参加者后感嘆させ、男山復活を強く印象づけた。

昨年の出荷数は、震災前を上回る110%を達成。盛岡そして県外からの引き合いも増えており、「外へも発信していかなくては」と斉藤社長は小売店への販促、震災を機に繋がった個人客へのアプローチにも力を注ぐ。もちろんベースにあるのは「酒は飲んで旨いと思うかどうか」と語る辻村杜氏の酒造りへの絶大な信頼だ。地元から全国へ、「男山」の評判は広がりがつつある。

宮古復興のシンボルから
全国でも愛される日本酒へ

企業データ

会社名 株式会社菱屋酒造店
本社 宮古市鉾ヶ崎下町5-24
電話 0193-62-3128
代表者 斉藤 鉄郎

創業 嘉永5年(1852)
従業員 7名
業種 日本酒の製造、販売
URL <http://homepage3.nifty.com/hisiya/>



サケとクリームチーズのブレッド「ふわっとろサーモン」は復興庁の事業採択を受け地元料理研究家の協力を得て開発、材料へのこだわりも光る。第三工場の焼き魚製造ラインは、加熱水蒸気で加温後に炭火で焼き上げる本格派。産地での一貫生産は全国でも例がない。

ホスピタリティ溢れるスタッフ。地元住民には憩いの場として、旅行者には陸前高田の風物を体験してもらうベースだ。客室はデラックスイン・スーパーアツイン・バリアフリーツイン・スタンダードツインの4タイプ。ホテル内部はシックなインテリアでまとめられている。

大船渡市
OOFUNATO

森下水産株式会社

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

キャピタルホテル1000株式会社

取締役本部長
森下 航生

【いわて産業振興センター活用事例】 設備貸与制度、専門家派遣事業を利用

【いわて産業振興センター活用事例】 震災復興専門家派遣事業などを利用

代表取締役社長
松田 修一

三陸の豊かな恵みを食卓へ
新事業展開で未来を描く

大船渡産サンマをはじめ、イカ、サバ、サケなどの海産物を加熱加工、全国のスーパーやコンビニチェーンなどへ供給してきた森下水産株式会社。中食の需要増を背景に事業も順調に拡大し、平成23年1月には保管冷蔵庫を取得、2月には本社工場隣接地に第二工場も取得した。森下航生本部長いわく「今後の成長をさぐる節目の年」、それはわずか1ヶ月後の大震災で崩れ去ってしまう。だが4月には自力で瓦礫撤去と在庫の廃棄を開始、7月には本社工場の一部稼働にまでこぎつ

ける。「大船渡はサンマのまち。秋の水揚げに（工場再開を）間に合わせ、震災のダメージを払拭したかった」と森下本部長。言葉通り10月には2つの工場が完全復旧、仕事と雇用の場を守り抜いた。

平成27年2月に新設した第三工場では、機械メーカーと独自に開発した焼き魚の製造ラインが稼働中。大船渡港に上がったサンマを自社で下処理し、本物の炭火でじっくり焼き上げる。従来の焼き魚製品にはない香ばしい焦げ目が特徴で、大手コンビニチェーンのPB商品として東北と北

海道約2000店舗と首都圏の一部でも販売されている。さらに今年1月には、大船渡産サケを使った初の自社商品「モリーくんのふわっとろサーモンブレッド」を発表、盛岡市の百貨店で発売も始まった。業務用から消費者向けへ、事業展開の可能性を探る。

「食材に恵まれているのが三陸の強みであり誇り。子どもたちにもっと魚を好きになってほしいし、水産業に携わる人たちの思いも伝えたい」と森下本部長。三陸に根ざす企業として、地域の未来づくりに貢献していく体制は整った。

企業データ

会社名 森下水産株式会社
本社 大船渡市盛町字田中島27-23
電話 0192-27-5100
代表者 森下 幹生

創業 昭和57年(1982)8月
従業員 115名
業種 水産加工品製造、販売
URL <http://morry.co.jp/>

企業データ

会社名 キャピタルホテル1000株式会社
本社 陸前高田市高田町字長砂60-1
電話 0192-55-3111
代表者 松田 修一

創業 平成23年(2011)12月
従業員 34名
業種 宿泊業
URL <http://www.capitalhotel1000.jp/>

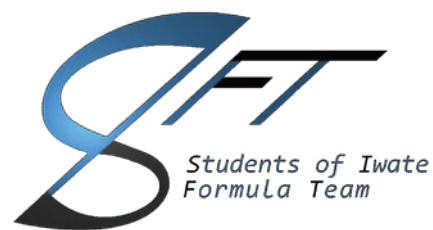
生まれ変わる陸前高田を
体験するための拠点として

大型商業施設の建設が始まり、平成32年度には国営の復興祈念公園の整備も予定されているという。「まさにゼロからの町づくり。刻々と風景が変わっていく様子は他では見られない」と松田社長。この地に立つホテルとして、にぎわいを産み交流人口を増やすためのツアーやプログラムを主催すべく、官公庁と民間がともに協議していく「下地づくり」の時期が来たと感じている。

会などへも対応する。再開から2年、今も復興支援関係者の宿泊は多いというが、松田修一社長は「ホテルは地元の人にとっても憩いの場であるべき」と経営理念を語る。気仙地域に居住歴のある人などを対象とした特別料金宿泊プランはホテル需要の多い年末年始からあえて実施し、帰省客の増加に貢献。またランチや宴会そして結婚披露宴など、住民にも気軽に利用できる工夫を凝らす。

風光明媚な高田松原海岸に接し、陸前高田市の観光拠点として歴史を刻んでいたキャピタルホテル1000。街を襲った大津波により7階建てのホテルは4階まで浸水、高田松原の風景とともに失われてしまった。しかし復活を望む多くの市民の声と経営陣の熱意で、再建計画がスタート。平成25年11月、市内の高台に移転再開を果たした。新施設は地上3階建て、全40室はすべてツイン仕様とし夫婦やファミリー客を意識。ほかにレストランや大浴場、宴会場やチャペルなども完備、宿泊から会合、宴

いわて環境と人にやさしい次世代モビリティ開発拠点プロジェクト



岩手連合学生フォーミュラチーム

Students of Iwate Formula Team



SIFTとは

一関工業高等専門学校、岩手大学、岩手県立大学の三校では、地域イノベーション戦略「いわて環境と人にやさしい次世代モビリティ開発拠点プロジェクト」の一環として、教育プログラムの作成や自動車関係の研究を行ってきました。その3校の自動車が大好きな学生が集まり、2014年にSIFTが誕生しました。

目標は「全日本学生フォーミュラ大会」EV(電気自動車)部門の優勝です。

学生フォーミュラとは

全日本学生フォーミュラ大会は毎年9月に静岡県で開催されており、今年で14回目の大会です。学生がフォーミュラカーを設計・製作し、その技術力を競います。正確なコストレポートを作成する競技やビジネスプランを立案する競技もあり、総合的なものづくりを競う大会になっています。



3校の専門知識を生かし、フォーミュラカーを設計・製作しています。



活動資金は学生が企業・団体を訪問し集めています。メディアの取材を受けることもあります。

私達はEV(電気自動車)部門に挑戦しています。電気車検の通過が難しいですが、将来性のあるクラスです。



一関高専の特許技術である世界初の装置2モータトルク差増幅型TVDを搭載。高い旋回性能を誇ります。

ご支援のお願い

学生フォーミュラ大会では活動費や材料も学生が調達する必要があり、各チームは団体・企業にスポンサーとして協力を依頼しています。

私達は岩手県初の学生フォーミュラチームとして、岩手県を中心とする団体・企業の皆様のご協力の元活動しています。

現在スポンサーを募集しております。私達は活動資金をはじめ、部品製作、技術指導を必要としています。スポンサーの皆様はさまざまな場所でアピールさせていただきます。

ご興味をお持ちの方は以下の連絡先までお気軽にご連絡下さい。



TVD製作

株式会社アイオー精密様(花巻市)／三幸歯車工業株式会社様(宮城県利府町)



カウル製作

株式会社モディー様(一関市)



スプリング製作

東北日発株式会社様(北上市)

お問い合わせ チーム事務局 [E-mail] sift4210@gmail.com 岩手連合学生フォーミュラチーム 検索

1月27日(水) ホテル東日本を会場に 平成27年度第2回「加速器関連産業参入セミナー」を開催しました

当センターでは、岩手県から加速器関連産業参入促進支援事業を受託し実施しております。本事業の一環として、加速器関連産業に関わる産学官の交流・連携機会の創出等を行う「いわて加速器関連産業研究会」加速器関連参入セミナーを開催したものです。

セミナーでは次のとおり講演を行いました。

- 講演1 「ILCの技術・機器等の現状と今後の開発課題」**
[講師] 野村総合研究所 上席コンサルタント 北村 倫夫 氏
- 講演2 加速器関連産業への参入企業様 事例発表**
2-1「加速器用電磁石の開発及び参入事例」
[講師] 元(株)トーキン・マシンナリー 代表取締役社長 田中 秀之 氏
2-2「超伝導加速空洞電解研磨装置の開発事例」
[講師] マルイ鍍金工業株式会社 代表取締役 井田 義明 氏
- 講演3 「AAAの取り組みとILCに関するものづくり」**
[講師] 一般社団法人 先端加速器科学技術推進協議会 (AAA) 事務局 松岡 雅則 氏 広報部会長 吉住 浩之 氏
- 講評** 大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構 名誉教授 東北大学 岩手大学 客員教授 吉岡 正和 氏



藤代博之研究会会長 挨拶



野村総合研究所 上席コンサルタント 北村倫夫 氏



元(株)トーキン・マシンナリー 代表取締役社長 田中 秀之 氏

マルイ鍍金工業株式会社 代表取締役 井田 義明 氏



AAA 事務局 松岡 雅則 氏

高エネルギー加速器研究機構 名誉教授 吉岡正和 氏

参加人数は、産学官合わせて115名となり、参加者からは大変参考になった、加速器関連産業への参入の心構えが出来たなど非常に有益であったとの声が多く寄せられました。

セミナー後の交流会では、県内企業の加速器関連産業への参入につながる活発な意見交換がなされ、情報発信・関係者の交流の場となりました。

平成27年度 下請取引条件調査について 「基本契約書を取り交わしている」…75.1%(前年76.8%)

当センターでは県内中小企業と親企業間の取引条件等の実態を把握するとともに、下請取引の適正化を図ることを目的に、下請取引条件調査を実施しました。

調査について	
調査対象	県内に事業所を置き、受注企業として登録している995企業
回答企業	399企業(回収率40.1%)
調査時点	平成27年10月1日

これによると、「基本契約書を取り交わしている」が75.1%と前年(76.8%)に比べ1.7ポイント減少しました。

また、代金の受取方法については「全額現金」が増加し、「現金手形併用」、「全額ファクタリング」、「全額手形」が減少しています。

調査結果については、当センターHP(<http://www.jo-ho-iwate.or.jp/>)に掲載していますのでご覧ください。

当センターでは企業間取引について、「顧問弁護士への相談」のほか、「下請かけこみ寺」事業を行っております。親企業との取引上のトラブル等で困っていることがありましたらご相談下さい。

【お問い合わせ先】 TEL:019-631-3822 ものづくり振興グループ

第45回 岩手県の物産と観光展 [名古屋丸栄展] 開催しました



平成28年2月4日(木)～2月9日(火)の6日間、愛知県名古屋市の丸栄を会場として、第43回岩手県の物産と観光展(名古屋丸栄展)を開催しました。今回は、岩手県の特産品の販売や、岩手県交通のバスガイドさんによる観光PR、抽選会を行うほか、国の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」を活用した「ふるさと割」販売を行いました。さらに、中日スポーツ新聞やリビング新聞名古屋版への岩手県PR広告を行いました。県内企業55社が参加し、売上金額は前回速報比109.8%の43,725千円(税込・速報)となり、盛況のうちに終了しました。

(株)高島屋グループ

お得意様特別ご招待会 ～岩手ふるさと販売会～開催しました

平成28年2月19日(金)～2月21日(日)の3日間、東京都五反田TOCビルを会場として、国の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」を活用した「岩手ふるさと販売会」を、岩手県、岩手県産(株)と共催で開催しました。県内食品企業44社が参加し、売上金額は24,395千円(税込・速報)となり、盛況のうちに終了しました。



第45回岩手県の物産と観光展(大いわて展) 開催予定

平成28年4月13日(水)～4月18日(月)まで、東京都日本橋高島屋8階催会場において、「第45回岩手県の物産と観光展(大いわて展)」を開催いたします。東日本大震災から5年を迎えた今年は、沿岸の商品を重点的に取り上げながら、県内の特産品を販売することとしています。皆様のご来場をお待ちしています。

会期	平成28年4月13日(水)～4月18日(月)の6日間
時間	10:30～19:30(18日最終日は18:00終了)
場所	(株)高島屋東京店 8階催会場(住所:東京都中央区日本橋2-4-1)



(株)高島屋 宣伝部の中里治氏に 感謝状が贈呈されました

長きにわたり、岩手県の県産品の開発や販路拡大にご尽力いただいた、(株)高島屋 宣伝部の中里治氏に、平成28年1月29日(金)岩手県商工労働観光部菅原部長より感謝状が贈呈されました。中里治氏は、「岩手県の物産と観光展(大いわて展)」担当として物産展開催にご尽力をいただき、「いわて特産品コンクール」の審査員長も務めていただいています。